

登録番号 第 22163 号

三井ソイリーン® (JA)

特長： ●クロルピクリンとD-Dが土壤中でガス化して隅々まで広がり、線虫・病害・雑草に効果を示します。
●クロルピクリンの刺激臭が少なくなっています。

ソイリーンは(株)エス・ディー・エスバイオテックの登録商標です。

有効成分	クロルピクリン (PRTR 法第1種)・・・41.5% 1, 3-ジクロロプロペン (D-D) (PRTR 法第1種)・・・54.5%	包装	15L×1
性状	淡黄色澄明液体	有効年限	3年
毒性	劇物	危険物	2 石-Ⅲ (指定数量 1000L (非水溶性液体))

2020年2月12日現在の内容です。

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用方法	クロルピク リンを含む 農薬の総使 用回数	D-Dを含む 農薬の総使 用回数
にんじん	しみ腐病	30 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ (1 穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	1 回	1 回
	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ (1 穴当り 2～3mL)					
ごぼう	ネグサセチュウ ネブセチュウ	20～30 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ (1 穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	2 回以内 (床土 1 回以 内)	1 回
	黒あざ病	30 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ (1 穴当り 3mL)					
	一年生雑草	20～30 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ (1 穴当り 2～3mL)					
すいか	つる割病 黒点根腐病	30 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ (1 穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	3 回以内 (床土 1 回以 内、圃場 2 回 以内)	1 回
	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ (1 穴当り 2～3mL)					
さやい んげん	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 $\frac{\text{リットル}}{\text{10a}}$ (1 穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1 回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	3 回以内 (床土 1 回以 内、圃場 2 回 以内)	1 回

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数	D-Dを含む 農薬の総使用回数
メロン	ネグサセチュウ ネブセチュウ	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の10～15 日前まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポリ エチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内、圃場1回 以内)	1回
	黒点根腐病 えそ斑点病 つる割病	30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)					
だいこん	バーティシウム黒点 病	30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポリ エチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)					
はくさい	ネグサセチュウ ネブセチュウ	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポリ エチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
	黄化病 根くびれ病	30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)					
キャベツ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポリ エチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内、圃場1回 以内)	1回
	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)					
未成熟 そらまめ	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポリ エチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内、圃場1回 以内)	1回
なす	ネグサセチュウ ネブセチュウ	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポリ エチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回
	青枯病	30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)					
トマト	萎凋病 ネグサセチュウ ネブセチュウ	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポリ エチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回 以内)	1回
	青枯病	30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)					

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数	D-Dを含む 農薬の総使用回数
ミニトマト	萎凋病 ネグサセンチュウ ネオブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフドリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以内、圃場2回以内)	1回
	青枯病	30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)					
きゅうり	つる割病 ホトブシ根腐病	30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフドリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以内、圃場2回以内)	1回
	ネグサセンチュウ ネオブセンチュウ 一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)					
ピーマン	ネグサセンチュウ ネオブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフドリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以内、圃場2回以内)	1回
	青枯病	30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)					
とうがらし類	ネグサセンチュウ ネオブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフドリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以内、圃場2回以内)	1回
	青枯病	30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)					
かぼちや	立枯病	30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフドリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
	ネグサセンチュウ ネオブセンチュウ 一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)					
こまつな	ネグサセンチュウ ネオブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフドリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以内)	1回
レタ	ネグサセンチュウ ネオブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフドリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数	D-Dを含む 農薬の総使用回数
かぶ	ネグサセチュウ ネブセチュウ	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
豆類 (未成 熟、ただ し、さや いんげ ん、未成 熟そら まめ、さ やえん どう、実 えんどうを除く)	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
ほうれ んそう	萎凋病 ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回
しょう が	ネグサセチュウ ネブセチュウ	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回
	根茎腐敗病	30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)					
ばれい しょ	そうか病 青枯病	30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)					
かんし ょ	ネグサセチュウ ネブセチュウ	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
	立枯病	30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (1穴当たり 2～3mL)					

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用方法	クロルピク リンを含む 農薬の総使 用回数	D-Dを含む 農薬の総使 用回数
さといも	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のホヱリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
やまのいも	ネグサセチュウ ネブセチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のホヱリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
	根腐病 褐色腐敗病	30 ^{リットル} /10a (1穴当り 3mL)					
	一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)					
いちご	炭疽病	30 ^{リットル} /10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のホヱリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回 以内)	1回
	萎黄病 ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)					
こんにゃく	ネグサセチュウ ネブセチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のホヱリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
	根腐病	30 ^{リットル} /10a (1穴当り 3mL)					
	一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)					
ねぎ	白絹病	30 ^{リットル} /10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のホヱリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回 以内)	1回
	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)					
さやえんどう	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のホヱリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回
実えんどう	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のホヱリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回
みょうが(花穂)	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のホヱリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回
みょうが(茎葉)	ネグサセチュウ ネブセチュウ 一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のホヱリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以 内)	1回

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数	D-Dを含む 農薬の総使用回数
にがうり	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以内)	1回
葉しょうが	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ 一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	2回以内 (床土1回以内)	1回
オクラ	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
	苗立枯病	30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)					
パセリ	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	1回	1回
	立枯病	30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)					
セルリー	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)	1回
	萎黄病	30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 3mL)					
	一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)					
きく	半身萎凋病	30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)					
ストック	萎凋病	30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)					
チュウリップ	球根腐敗病	30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフタリ状に深さ約 15cm に所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以内、 圃場2回以内)	1回
	ネグサセンチュウ ネブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当たり 2～3mL)					

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む 農薬の総使用回数	D-Dを含む 農薬の総使用回数
カーネーション	萎凋細菌病	30 ^{リットル} /10a (1穴当り 3mL)	作付の10 ～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回 以内)	1回
	ネグサセンチュウ ネコブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)					
トルコギキョウ	根腐病 立枯病	30 ^{リットル} /10a (1穴当り 3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回 以内)	1回
	ネグサセンチュウ ネコブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)					
花き類・ 観葉植 物 (ストック、チ ューリップ、 きく、カー ネーション、ト ルコギキョウ を除く)	ネグサセンチュウ ネコブセンチュウ	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回 以内)	1回
花き類・ 観葉植 物	一年生雑草	20～30 ^{リットル} /10a (1穴当り 2～3mL)	作付の 10～15 日前 まで	1回	耕起整地後、30cm 間隔のフ リ状に深さ約 15cm に所定量 を注入し、直ちに覆土し、ポ リエチレン、ビニール等で被覆する。	3回以内 (床土1回以 内、圃場2回 以内)	1回
たばこ	ネコブセンチュウ 立枯病	(畦内土壌注入) 1穴当り 2～3mL	作付の 30日前 まで	1回	(畦内土壌注入)畦立後、畦 中央の頂上から、30cm 間隔 で、35cm の深さに所定量を 注入し、直ちに注入口をふ さぎ、ポリエチレン、ビニール等で被 覆する。	1回	1回

については有効成分を含む農薬の総使用回数を示すものです。

使用上の注意事項

- (1) 生育中の作物には薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (2) 温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時使用すること。
- (3) 本剤の処理に当たっては、ガスが土中で十分拡散するよう耕起、碎土を十分行い、丁寧に整地してから処理すること。但し、耕起直後ではガスが抜けやすいので、耕起後しばらくたって土壌がおちついてから処理することが望ましい。また、土中でのガスの拡散は土の湿り気のある時、すなわち土を握って放すと割れ目ができる程度の時に注入するのが最適である。注入後は直ちに穴をふさぎ、地表面をポリエチレン、ビニール等で被覆すること。
- (4) 処理は原則として作付の10～15日前に行ない、作付の1～2日前に畑を耕起して十分にガス抜きをすること。ガス抜きが不十分な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意すること。うり類は薬害を生じやすい傾向にあるので、ガス抜きを特に念入りに行うこと。
- (5) 処理後、大雨があったり、土壌が重粘土質で通気の悪い所では、ガス抜きを特に念入りに行うこと。
- (6) 処理後、未消毒の土がなるべく混入しないよう注意すること。
- (7) ミツバチの巣箱周辺での使用はさけること。
- (8) 消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有害な物質を作り、薬害の発生するおそれがあるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の10日以上前に施用すること。

- (9) 他剤と混用しないこと。特にカーバム剤及びカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険であるので、カーバム剤及びカーバムナトリウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いること。
- (10) 金属腐食性があるので、使用後の注入器具その他は灯油でよく洗うこと。
- (11) 薬液の入っている製品缶に水が混入すると缶が腐食するおそれがあるので、製品缶には水を入れないこと。
- (12) 土壤消毒機の薬液タンク（ポリタンク等）に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがあるので、残存薬液は製品缶に戻さず、使い切ること。
- (13) 処理後の放置期間と効果、薬害との関係は、土壤の種類、腐植土の多少、温度、土壤水分、作物の種類によって様ではないので、本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意すること。特に、初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (14) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法-----

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないように注意すること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、通風の良好な場所で顔を横に向け、体を暖め、頭部を冷やしながらかん静にし、直ちに医師の手当を受けること。場合によっては、酸素吸入又は人工呼吸を行い、強心剤等を投与する。
- (2) 本剤は催涙性の刺激を有し、眼、のど、鼻を刺激するので注意すること。ガスが眼に入りひどく痛む時は、多量の水でよく洗い速やかに眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 本剤の投薬作業の際は吸収缶（活性炭入り）付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用すること。ガス抜き作業の際も同様の防護マスク、保護眼鏡を着用すること。作業の際はガスを吸い込まないように風向き等を十分考慮すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 本剤が衣服等に付いた場合には、脱衣して他のものとは分けてよく洗濯し、本剤の臭気が抜けるまで身に付けないこと。
- (6) かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。
- (7) 作業中及びくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分に注意すること。
- (8) 揮散ガスによる危被害を防止するため、本剤の処理は朝夕の気温の低い時間帯に行うこと。処理後は直ちに、必ずビニール等で被覆を行うこと。
- (9) 住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用に当たっては、以下の事項に留意し、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮すること。
 - 1) 高温期の処理をさけ、気温の低い季節に処理するのが望ましい。
 - 2) 住宅、畜舎、鶏舎が風下になる場合、処理を控えること。
 - 3) 被覆資材は厚めのもの（0.03mm以上）を使用すること。
 - 4) 風の強さや向きが変わり、危被害を及ぼすおそれがある場合は、ガス抜き作業を中断すること。
- (10) 本剤をビニールハウス等の施設内で使用する場合、出入口、天窗、側窓等を開け通気をよくして作業を行うこと。作業後は直ちに密閉し、臭気が残っている期間にはハウス内へ入らないこと。くん蒸後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- (11) 本剤を使用する場合、注入処理と同時に被覆する機能を備えた土壤消毒機を使用することが望ましい。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨-----

- (1) 本剤は水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散、流入するおそれのある場所では使用しないこと。
- (2) 散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨-----

- (1) 危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意すること。
- (2) 本剤は皮膚に対して強い刺激性がある。

貯蔵上の注意事項

火気をさけ、直射日光が当たらない鍵のかかる低温な場所に密栓して保管すること。